

おとどめ

音留

日常のどこにでも散らばっているオノマトペ。
それは時間や人の感性によって変化します。
そこで、その感性の一つを詩として表しました。
まず初めにのコードに入っている「音」
から、時間の流れと共に体験してください。

鴨川デルタ

朝

今日も誰かが来た
君はどう思うのだろう

ぴしゃり 今日の光が川をたたく
ぽくぽく 靴音はじけて飛び石へ
きらり 水面に反射して私を睨む
しずしず 木陰が腕を広げる
つるる 流れる水の帯
ひしひし 乾いた白い背が
水面から顔を出す
すうすう ただ白いあの雲を待っている

あの人の背中がふうわり消えた

昼夕

また誰かがやってきた
どんな時間が流れるのだろう。

ぶわっと 私の横を抜ける翼は
スバリ 輝いた水を割く
ゆらゆら 反射した光は一度として
同じ表情を見せない
さやさや 高く低く、風が鋭い葉をなでる。
ひわりと 広がった翼がオレンジを纏う
かしゅん、かしゅん 疲れを乗せた車輪が
ゆつくりと回る

とん、とん 暮れゆく道を踏みしめる

ゆつくりと影は伸び空が静かに淡く染まる

夜

今日ももう終わる。
誰もいなくなる前に、君に伝えよう。

ぱちり 町の光が瞬き
ぼわっ 灯が夜の始まりを伝えてくれる
はらり 橋を抜けた風が静寂を運ぶ
ざあざあ どこへともなく、夜の奥へと消えてゆく。

ぽちゃん 静寂を揺らし、すぐに夜へ溶ける。

すうっと ひとつの光が、寂しげに見下ろす。
ふわりふわりと夢の中

ほら、今日もここで君を見守っていたよ。